

昭和52年5月25日 第3種郵便物認可 令和4年3月10日発行(毎月1回10日発行)



世界の円満
人類の福祉

THE ENPUKU

3月

2022 No.498



世界法民連帯 円福友の会

円福友の会入会のすすめ

1食1円のSABA運動で世界の平和に尽くしましょう。

SABAとは、禅寺の僧堂でお食事の前に、七粒ほどのご飯をお膳のすみに取っておき、後で小鳥に施す「生飯(さば)」というお作法のことです。

これを日本の皆さんのが1食1円のSABAとして、アジアの貧しい国々の子ども達のために学校建築(教育)や、井戸やトイレの設置(環境衛生向上)を支援する、国際ボランティア資金の運動です。1食1円ならどなたにもできます。塵も積もれば山となるように、皆さんの御協力をお願いする大きな愛の運動です。(この運動は、特定の政党や宗教や思想に関係のない、非営利の国民運動です。)

綴じ込みの郵便振替用紙を使い年会費やSABA運動等の協力金をお送りください。お送りいただいた皆様には毎月『圓福』と『おもいやり』をお送りし、円福友の会の活動と円福寺愛育園の子どもたちの様子をご報告いたします。

表紙の写真

キムさんは、アンコールワットの日本語ガイドですが、コロナで仕事が全く無くなりました。

それで、ドローンであちこちの田んぼの消毒を手掛けています。

生きる力がたくましいです。

円福友の会との約束は忘れていませんよと言ってくれました。

コロナが収まったら倫理法人会の皆さんのお力で建設したドンソン小学校校舎や、皆さまのご寄付で掘削した井戸を見に行きたいです。

3月号の内容

にこにこ法話 勤労	1 p
ドゥアン・プラティーブ財団の40年—スラムの天使の歩みと闘い (その13)	4 p
養育随想 心の養育 カタカナ言葉	7 p
大心 法戦式と受処の日々	11 p
おっしゃんの修証義解説	14 p
敬愛信 (株)フレックス 相談役 矢島久和さまのご逝去を悼む	16 p

ニコニコ法話



父は、自分には余生は無いと言つて、死ぬまで働いていました。

九十歳を過ぎるころからは、いよいよ

人生の第四コーナーを回つた、ラストスパートだと、毎月の

参禅会の法話やあち

こちのお話しで言つていきました。その時

の父は笑顔で、明るく、生命がほとばしつているように見えました。

毎朝早く愛育園へ行つて職員や子どもたちを叱咤激励していたのは、創立五十年にならんとする八十五歳のころでした。児童棟を今のように新しく改築したのは九十歳の時でした。愛育園と幼稚園の理事長は九十七歳まで続けていました。

た。「圓福」も出版部もそのころまで続けていました。すごいなと思います。どうして父は働くことに突き進んだのでしょうかね。

先月号で触れた石田梅岩に関する本を読んでいくうちに、江戸時代の曹洞宗の禪僧の鈴木正三に行き当たりました⁽¹⁾。

勤労

鈴木正三は関ヶ原の合戦にも参加した武土です。それが一転して四十歳を過ぎて曹洞宗のお坊さんになりました。

正三に、ある農民がどうしたら成仏できるかを聞きました。（四民日用）
「後生一大事、疎ならずといへども、農業時を遂て隙なし、あさましき渡世の業（農業のこと）をなし、今生むなくして、未来の苦を受べき事、無念の至なり。何として仏果に至べきや。」と。

ニコニコ法話

簡単にいえば「仏行にはげめ」などと言わっても、農民にはそんな余暇は全くない、どうしたらよいでしょう、という問いただす。

これに対する正二の答えは明確で「農業即仏行なり、隙を得て仰生願と思は

誤なり」です。

「極寒極熱の辛苦の業をなし、鋤鍬鎌を用得出て、煩惱の叢茂此身心を敵となし、すきかへし、かり取と、心を着てひた責に責て耕作すべし。⁽²⁾ 身に隙を得時は煩惱の叢増長す、辛苦の業をなして、身心を責時は此心に煩なし。」。如此四時ともに仏行をなす、農人何とて別の仏行を好むべきや

このように実行すれば、ろくに修行していない僧などよりはるかに立派であり、そうなるか、ならぬかは、「心に

有て業になし。」なのである。(同書)

社会の皆さんは、きっとこのように思いい、今の「僧」たちを見ているのではないでしようか。私を含めて、いわゆる「僧」と呼ばれる人は、もつて心に銘すべきです。

それに続けて、さらに次のように述べています。

「夫農人と生を受事は天より授給する世界養育の役人なり。去ば此身を一筋に天道に任奉り、かりにも身の為を思はずして、正天道の奉公に農業をなし、五穀を作出して仏陀神明を祭り、万民の命をたすけ、虫類等に到迄施べしと大誓願をなして、一鋤一鋤に、南無阿弥陀仏、なむあみだ仏と唱へ、一鎌一鎌に住して、他念なく農業をなさんには、田畠も清浄の地となり、五穀も清浄食と成て、食する人、煩惱を消滅するの

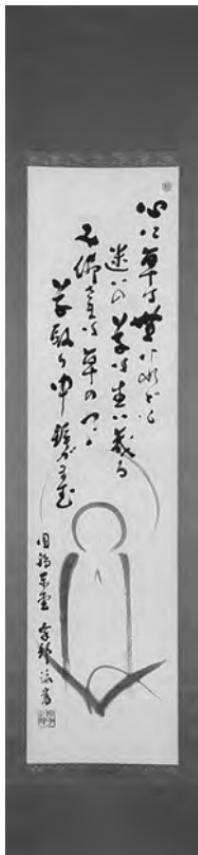
葉なるべし。

「(この)一念の中に農業をなさば大解脱、自在の人となつて、成仏できる」

私はこれを読んだ時に、道元禪師さまの教えの只管打坐の心と、それを常住坐臥喫茶喫飯に広めて生活しなさいというみ教えを思い浮かべました。

そして、正法眼藏「生死」の「ただわが身をも心をもほとけの家に投げ入れる」という言葉も思いました。私も、「ろくに修行していない僧」ですが、毎日の仕事に身を投げ入れて、ただひたすら、

子どもたちの幸せのために、全くすことが修行であり、成仏につな



がつていると信じるものです。それが自己の本性そのものと感じています。そして、父のように、死ぬまで仕事に近くしたいと思います。

(1)「山本七平の日本資本主義の精神」

(ビジネス社) 149 p

(2)父の詩に「み佛は草の中」があります。

心に草はなけれども

迷いの草は生い茂る

み佛さまは草の中

草取り申し 拝がまむ